

黒松内中学校 環境教育事業 メモ

建物を運用する住まい手（生徒・教職員）を対象に考えたい2項目

ふだんの生活環境で、自らの環境をほどよい状態に自発的に調整する能力を養う（強制して環境調整を行なわせるのではなく）。

たとえば、教室に温湿度計をひとつ置いて、それを日々、確認するだけでも、中で住まうヒトの振る舞いが大きく変わる可能性がある。自発性を生む「きっかけ」をつくりたい。

たとえば、新しい中学校校舎の良さ・魅力さがし（定期的に学校環境の魅力をさがし、記録に残し、年次もしくは卒業時に手渡しする）。

地域にある自然環境（ブナ）の保全と住まい（建築）の環境調整がどのようなつながりがあるかを理解する。

たとえば、「黒松内中学出身＝ブナ里を守るために必要なことが理解・実践できる＝自らの生活環境を快適に調整する能力を有する」式が成り立つような環境教育を目指したい。黒中出身者なら言葉・表現は違えども、他の地域出身者にこの内容を語るができる。

一日の生活から想定される環境教育の機会（例）

1) 朝 登校時

- ・ 家庭ごみだし（分別） 自転車による通学（夏季のみ）

2) 教室入室時（始業前・日直の仕事？）

- ・ カーテン・ブラインドの調整 窓開け
- ・ 照明のスイッチ（必ずしも ON でなくて良い、OFF でも十分と感じる能力）

3) 授業時

- ・ カーテン・ブラインドの調整（ほどよい光・熱環境に調整する能力）
- ・ 窓開け閉め（ほどよい熱・空気環境に調整する能力）
- ・ 照明の調整（ほどよい光・熱環境に調整する能力） 暖房の調整（熱環境の調整）
- ・ 授業内容 参照：長谷川氏の資料

4) 休み時間

基本的には授業中に同じ。トイレ・水周りの環境・設備の体系的な理解。水のはなし。

5) 給食

- ・ 食材の供給と消費と排出を感じることができるか、残飯の行方（分別）

6) 掃除の時間

- ・ 換気（窓・換気扇による調整） ゴミだし（分別） 水（清掃で使う水、捨てる水）

7) 放課後（部活動）・下校時

- ・ 照明の OFF
- ・ 窓閉め（防犯対策が講じられていて、夏季夜間換気を実施するならば窓の適度な開放）